

令和7年11月11日

データサイエンス・オンライン講座 「誰でも使える統計オープンデータ」の受講者募集開始

総務省は、統計リテラシー向上の取組として、“データサイエンス”力の高い人材育成のため、データサイエンス・オンライン講座「誰でも使える統計オープンデータ」を令和8年1月13日（火）から開講することとし、本日から受講者の募集を開始します。

○講座の概要

e-Stat（政府統計の総合窓口）やjSTAT MAP（地図で見る統計）を使ったデータ分析のほか、ふだんメディアなどで耳にするGDP統計（国民経済計算）を始めとした景気判断に用いられる統計を詳しく見ていくとともに、人口・雇用・賃金等に関する統計の見方も学ぶことができます。

本講座は、平成29年6月に初めて開講し、これまで延べ約6万4千人に受講していただきました。

○開講期間

令和8年1月13日（火）～同年3月17日（火）（予定）

○受講登録

本講座紹介用ウェブサイト（<https://gacco.org/stat-japan3/>）において、どなたでも受講登録が可能（登録料及び受講料無料）ですので、是非御登録ください。

※ 本講座は、令和7年1月に実施した講座を再び開講するものです。

※ 受講登録は、令和8年2月23日（月）までの予定です。

（別紙）

データサイエンス・オンライン講座「誰でも使える統計オープンデータ」の概要

（連絡先）

統計局統計情報利用推進課

担当：辻元、田中、平田

電話：03-5273-1023（直通）

E-mail: y-senryaku_atmark_soumu.go.jp

（スパムメール防止のため、「@」を「_atmark_」と表示しています。メールを送る際に「_atmark_」を「@」に直して入力してください。）

「誰でも使える統計オープンデータ」の概要

講座の目的：e-Stat※¹やjSTAT MAP※²を使い、統計オープンデータを活用したデータ分析の手法を習得する

開講期間：令和8年1月13日（火）～3月17日（火）予定

学習時間：1回10分程度×5～7回程度（1週間）×4週

課題：各週の確認テストと最終課題の実施

講師：西内啓氏（株式会社データビークル共同創業者）ほか



週	各週のテーマ	内 容
1	e-Statを使ったデータ分析	e-Statの統計データを活用したデータ分析の事例、基本的な活用方法を学ぶ （統計を仕事に活かすとは、e-Statを使った現状把握・関連要因の探索・将来の予測等）
2	公的統計データの活用①	国の経済の規模をはかるGDP統計と関連する公的統計の見方を学ぶ （景気判断に求められる統計、GDP統計の読み方、GDPの名目と実質等）
3	公的統計データの活用②	人口統計・労働関連統計を中心に景気判断に用いられる統計の見方を学ぶ （経済成長と人口統計、労働市場の分析、公的統計の活用（人口統計、雇用・賃金統計）等）
4	地図で見る統計（jSTAT MAP）の活用	統計データと地図を組み合わせた活用方法等を学ぶ （地図で見る統計（jSTAT MAP）の機能紹介、簡単にできるレポート作成、活用事例紹介等）

※1 政府統計の総合窓口

※2 総務省統計局及び独立行政法人統計センターが運用する、各種統計データを地図上に表示し、視覚的に統計データを把握できる地理情報システム

▶ 講座の流れ

講義動画



確認テスト及び最終課題



修了証の発行

講師による説明動画でデータサイエンスを分かりやすく解説

各週の確認テストにより理解度を確認、最終課題により習熟度を確認

確認テスト及び最終課題の得点率により修了証を取得

▶ これまでに開講したデータサイエンス・オンライン講座

「社会人のためのデータサイエンス入門」

（講座の特徴）

統計データ分析の基本的な知識を学べる入門編講座

（開講時期）

初回開講：平成27年3月
直近の開講：令和7年6月
開講回数：22回 ※特別開講含む

（学習時間）

1回10分程度×6～9回程度
（1週間）×4週

（実績）

社会人を中心に延べ
約22万8千人が受講

「社会人のためのデータサイエンス演習」

（講座の特徴）

「社会人のためのデータサイエンス入門」を踏まえ、より実践的な内容へ

（開講時期）

初回開講：平成28年4月
直近の開講：令和7年9月
開講回数：15回 ※特別開講含む

（学習時間）

1回10分程度×5～8回程度
（1週間）×5週

（実績）

社会人を中心に延べ
約9万9千人が受講

「誰でも使える統計オープンデータ」

（講座の特徴）

e-Stat（政府統計の総合窓口）等を使い、統計オープンデータの活用方法を学ぶ

（開講時期）

初回開講：平成29年6月
直近の開講：令和7年1月
開講回数：14回 ※特別開講含む

（学習時間）

1回10分程度×5～7回程度
（1週間）×4週

（実績）

社会人を中心に延べ
約6万4千人が受講

※特別開講：参考として動画の閲覧のみ可能な講座